

久都第536号
平成20年10月16日

国土交通省道路局長様

久喜市長 田中暉



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記の件について、
別紙のとおり回答します。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望提案など

埼玉県久喜市

- ・ 圏央道を始めとした環状道路や都市間を結ぶ高規格道路の整備を推進することはもとより、人口が集中している首都圏においては、バイパスの整備や交通渋滞の解消対策、主要幹線道路に架かる橋梁の点検・補修、安全で安心な歩車道分離道路の整備をこれまで以上に推進されたい。
また、それに併せて、生活道路や通学路などの市民生活に密着した道路の安全対策と市町村道に架かる橋梁の点検に対する補助制度の拡充をお願いしたい。
- ・ 道路特定財源に係る議論では、道路建設自体が無駄であるがごとき誤った印象が国民全体に広がった面が否めない。地域が持っている特色や様々な課題を分析した上で、選択と集中により、真に必要な道路の建設計画を樹立し、更なる整備を推進されたい。
- ・ 久喜市では、圏央道の整備に併せて広幅員の側道を整備することとし、平成19年3月に関東地方整備局と協定を締結し、平成19年から23年までの5年間で建設費用を負担するとになっております。しかしながら、3つの鉄道（東北新幹線・JR宇都宮線・東武伊勢崎線）と4つの河川の横断部については市が整備することが求められており、この整備には莫大な費用を要するところです。
この側道は、市街地における通過交通の迂回や隣接市町を結ぶ交通ネットワークの主要幹線道路としての役割を担うものであることから、圏央道側道の鉄道・河川の横断部についても財政支援をお願いしたい。
- ・ 高規格道路以外に、生活道路の整備にも財源確保ができる補助制度があればよい。

②－1 地域の現状と抱える課題

埼玉県久喜市

○ 現状

- ・ 市域の東側において、南北方向の幹線道路が不足している。
- ・ 朝夕の通勤時間帯において、過度の交通集中により、県道と県道の交差点を始め、主要な交差点で渋滞が発生している。
- ・ 現在、平成22年3月を目指して1市3町の合併協議を進めているが、全体的に都市計画道路以外の補助幹線道路が不足している状況である。
- ・ 幹線道路に架かる橋梁の老朽化が進んでいる。
- ・ 財政状況が厳しいことから、建設予算が充分に確保できない状況である。

○ 課題

- ・ 県道の交通渋滞を回避する車両が、生活道路や通学路に迂回している状況が多く見られる。
- ・ 歩行者に安全な歩車道分離道路の整備が、幅員の不足などにより不十分である。
- ・ 幹線道路において、河川に架かる橋梁の架設時期が昭和40年代から50年代前半にかけて集中しており、これの延命化が課題となっている。橋梁点検業務を20年度から開始したばかりだが、調査自体に5年間を要するとともに、その調査費用が高額であり、点検結果によっては、更に補修費が生じることも予想される。
- ・ 中心市街地を始めとした旧市街地においては細街路が多く、災害時や緊急時などは問題がある。

② - 2 地域の目指すべき将来像

埼玉県久喜市

- ・ 圏央道の開通により埼玉県内の高速道路ネットワークが完成することになり、本市においては、圏央道の（仮称）久喜白岡ジャンクションの整備により首都圏の各高速道路と接続することから、物流などの産業集積地としてポテンシャルが飛躍的に増大することとなります。そこでこの機会をチャンスと捉え、一部で土地利用を見直しながら、道路交通の要衝としての地の利を生かした工業団地の誘致を進め、県北東部の拠点都市としての更なる発展を目指すものであります。
これには、ジャンクションや東北道久喜インターチェンジ周辺の、県道を始めとした主要幹線道路の整備・改良や渋滞解消対策は、重要・不可欠であるものと考えております。
- ・ 整備されることとなる圏央道の側道と、計画されている市域の東側の都市計画道路を始めとした関連道路の整備を実現することにより、市内幹線道路の渋滞解消など、道路交通体系の確立を図りたい。
- ・ 道路は私たちの毎日の生活に欠かせないのはもちろんのこと、日照・通風・防火帯や街路樹による安らぎの空間としての様々な役割を果たしており、高規格道路のみならず、市民生活に密着した道路の充実を図っていく必要があります。歩道の拡幅や橋梁点検等による安全性の確保や車道との段差のないバリアフリー化の推進、4m未満の未舗装道路を解消し、安全・安心な道路づくりを推進するとともに、市民には、道路里親制度により、市道の清掃美化活動に参加していただき、協働による美しい道路環境づくりを進めていくものであります。